

2023 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要 (WEB 公開用)高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [川嶋悠太]

学年・組・番号 [1 年 c 組 4 番]

研究課題： 対馬の生態系と環境問題

(英文) The Ecosystem and Environmental Problems in Tsushima

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200~400 字で記入してください)

対馬では漂着ごみの量が年々増加し、環境面への影響だけでなく、ごみ処理に伴う、経済面での影響も大きな問題となっている。そのため漂着量の多い島の西側の海岸にて実地調査を実施した。また、市の担当職員である、前田さんに漂着ごみの実態やその対策についてお話を伺った。

近年の地球温暖化の影響を受けて、対馬では特に磯焼けや、生態系の変化といった問題がみられている。磯焼け、生態系の変化により以前から生息していた魚がいなくなってしまう、島の大きな産業の一つである漁業に大きな影響を与えている。そこで、対馬野生生物保護センターを訪問したり、じっさいに対馬の自然と触れ合ったりすることで対馬の自然環境、保護状況に関して調査した。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200~400 字で記入してください)

まず、漂着、海洋ごみについて、対馬の西側の海岸にて実地調査を行った際に、多くに漂着ごみが目に入った。他にも、市内の用水路に目をやってみると、多くの魚とともにごみが浮かんでいる。また、そのごみをよく見ると何種類かの言語がみられた。韓国、中国、台湾、そして日本本土から流れ着いているようであった。このように、対馬に流れ着いているごみの量は收拾のつくものではない。この現状を踏まえると、SNS 等を活用し対馬市の現状を対馬市内外に伝えていく必要があることを明らかにした。

次に対馬の環境について。対馬では今漁獲量の減少が問題になっているようであった。地球温暖化によって海藻が枯れる磯焼けが起こり、それに伴って魚が減ってしまった。他にも海水温が上がったことによる生態系の変化も影響しているようだった。市の担当職員の方の話によると、生態系が変わったことで新たにやってきた魚を捕獲、加工して販売するなどの対策をしているようだ。そこで、対馬市では「7つの重点アクションと3つの土台」と称してSDGsを促進する取り組みを行っている。しかし、これでは失われた漁業などでの収入をすぐに補うことはできない。この事実を踏まえると、エコツーリズムを活用した観光業など比較的すぐに利益の出やすい方法が必要であるということを明らかにした。

.....
.....
.....
.....
.....
.....

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 1年C組4番 川嶋悠太

研究分担者 3年H組26番 横山利知

担当教諭 柿沼亮介

(受給額：

円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEB ページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)





以上